

## 第2章 浜中町の概況

### 第1節 自然条件

#### 第1 位置及び面積

本町は、東経145度19分から144度55分、北緯42度59分から43度14分、北海道東部の釧路総合振興局管内最東端に位置し、東は根室市、北は別海町、西は厚岸町に接し、南は太平洋に面している。東西19.63km、南北は51.05kmで面積は423.43km<sup>2</sup>である。

また、道東の拠点都市釧路市から約87km、根室市から約45kmの位置にある。

#### 第2 地形・地質

地形の特徴としては、根釧原野の南東端にあり、起伏の小さい丘陵性台地が中心で、小河川、大小の湖沼、湿原、約67kmに及ぶ海岸地帯は、砂浜、海食崖、陸繋砂州（トンボロ）など変化に富んだ特徴を持っている。

大別すると、根釧原野に連なる標高40mから80mの波状性台地面及び風連川を始めとする河川流域と海岸沿いの湖沼周辺に見られる沖積低地面の2つに分かれる。

波状性台地面は北部に標高を増すが、開析の度合いは南部海岸沿いの地帯が進んでおり丘陵性を帯びている。

一方、沖積低地面は、いずれも低湿地で一部の砂丘地を除き、その大部分は低泥炭で覆われ、中央部は国内で3番目の広さを持ち、平成5年に藻散布沼、火散布沼とともにラムサール条約登録湿地として認定されている霧多布湿原（3,168ha）があり、この中央部803haは、「霧多布泥炭形成植物群落」として、大正11年に国の天然記念物に指定されている。

地質は、北部の丘陵性台地面は粗粒砂岩、円礫質砂岩、暗灰色頁岩からなる上部白亜紀層を基盤とし、これを古第三紀層（粗粒砂岩）が不整合に覆い更にこの上部を凝灰質砂泥礫からなる洪積層の西春別層が覆っており、その上部には新規の火山灰が厚く堆積している。

一方、沖積面はいずれも低湿地で一部を除き泥炭地で覆われている。

#### 第3 気候

気候は、春から夏にかけては、南東の微風に乗って海霧が多く発生するため最高気温も20℃前後で冷涼な夏となっている。

夏の終わりから秋にかけては快晴の日が続き、冬期間は、北西の風が多く晴天が続き、雪は少ないが冷え込みが厳しい。

#### ○資料編 [各種資料] 資料17 気象観測データ

## 第2節 災害の概況

本町では、過去の災害記録から、主な災害は、台風、集中豪雨等による風水害、強風による火災、建物崩壊等が挙げられ、地震・津波災害による被害も記録されている。参考までに、気象災害の特徴は、次のとおりである。なお、主な火災及び風水害等の記録は、資料18のとおりである。（地震・津波の記録は、「地震・津波防災計画編」に示す。）

### 第1 気象災害の特徴

#### 1 春（3月～5月）の災害

低気圧や高気圧が交互に北海道付近を通過し、数日周期で天気に変化する。

低気圧はしばしば急速に発達しながら北海道付近を通過するため、低気圧の接近時は気温が高くなり、急激に融雪の進むことがある。このため、少量の雨でも浸水害や洪水害など融雪災害が発生することがある。また、低気圧の通過前後は暴風が吹き、上空に強い寒気が流れ込むことにより暴風雪となる場合がある。平成25年3月には、道東を中心に暴風雪となり、大きな被害が出た。

本町においては、平地の融雪は徐々に河川に注ぐため急激な増水は起こさないが、山腹積雪が溶けて急速に注ぎ、平地の融雪によって貯えられた水とともに排水溝その他の小河川の流れを活発にして一挙に出水することなどが考えられることから、警戒が必要である。

#### 2 夏（6月～8月）の災害

北海道では梅雨がなく、高気圧に覆われて晴れる日が多い。

しかし、本州方面から北上した前線が北海道付近に停滞したり、太平洋高気圧の縁辺を周り温かく湿った空気が北海道へ継続的に流入することにより、局地的に非常に激しい雨が降り続き、土砂災害や浸水害、洪水害が発生することがある。

また、広範囲に大雨や暴風をもたらす台風は6月以降、北海道付近に接近しやすくなり、8月は9月と並び台風接近数が最も多い。

平成28年には、8月に5個の台風が接近、うち3個が北海道に上陸し、本町の被害は少なかったが、北海道内で大雨による土砂災害や河川の氾濫、低地の浸水等により大きな被害が出た。

#### 3 秋（9月～11月）の災害

秋は、低気圧や高気圧が交互に北海道付近を通過し、数日周期で天気に変化する。

しかし、前半の時期は前線が北海道付近に停滞したり、台風が北海道へ接近するため、暴風や高波、大雨による土砂災害や河川の氾濫、低地の浸水害等により大きな被害の出ることがある。

本町では、平成25年9月に台風第18号による記録的短時間大雨や暴風雨により、土砂災害や浸水害が発生した。

#### 4 冬（12月～2月）の災害

西高東低の冬型の気圧配置となりやすく、晴れる日が多い。冬型の気圧配置が長く続く場合は、同じ場所で長時間強い雪が降り続くことにより、局地的な大雪となることもある。また、低気圧が北海道付近を通過する際に急速に発達することにより、広範囲で大雪や暴風となることがある。

本町における雪害では、吹雪、なだれ、電線着雪等により、公共交通の乱れ、通行障害が発生し、交通・通信、産業等に被害をもたらすことが考えられる。

#### 第2 その他災害について

本町に発生が予想されるその他の災害としては、地震・津波災害のほか、各種火災、事故災害への警戒も重要となる。

#### ○資料編 [各種資料] 資料19 過去の火災及び風水害等の記録